

事務事業	13013	片峰山緑地保存事業	担当課	都市整備課	担当係	都市整備係
計画期 体計 系画	施策	12 自然環境を維持し、保全するまちをつくる	予算 科目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	370 自然保護に対する町民の意識を高める		款	8	土木費
				項	5	都市計画費
				目	4	緑化推進費
法令根拠条例等	都市緑地法・志免町緑地保全と緑化推進に関する条例及び施行規則		個別計画			
実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S59 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～	年度

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 緑豊かな自然環境を形成している緑地で、保全することが必要と認められる区域を緑地保全林地区として指定し、緑地の保全と緑化の推進に要する費用の一部を助成することによって、緑地の保全を図る目的で昭和59年より開始。		<input type="checkbox"/>	2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
		主 な 事 業 費 の 内 訳	草刈・伐採委託料 665 千円
			片峰山緑地保存補助金 388 千円
			千円
			千円
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 緑地の保全にかかる補助金申請の受付・支払			千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

事務事業の目的	① 手段(主な活動) 30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) 緑地保全に要する費用の助成。	⇒	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)					
	② 対象(誰、何を対象にしているのか) 緑地保全林地区所有者	⇒	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					
		③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 数少ない町内の緑地を保全してもらおう。	⇒	⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)				

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)	
	経費	国・県支出金、地方債等							
		受益者負担等							
		一般財源	828	832	1,052	832	832	832	
		合計(A)	828	832	1,052	832	832	832	
		(内臨時・嘱託職員人件費)							
	正職員人件費[按分](B)	1,784	2,072	1,965	997				
トータルコスト(A)+(B)	2,612	2,904	3,017	1,829	832	832			

## 事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

### (3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか？いつ頃どんな経緯で開始されましたか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか？	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか？(誰からの意見か明記)
都市化を目指した開発による緑地の減少を防ぐため、緑地の保全を行う。	保全区域及び周辺地域については特に変わっていない。	特になし

### (4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善  <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	緑地保全林地区未指定の土地の地権者に承諾を得て、緑地保全林地区の指定を行うことにより、成果向上を図る余地がある。	<input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた(コメント必要ありません)  <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	土地利用等の事情により、緑地保全林地区未指定の土地の地権者から承諾を得ることはできなかった。対象の土地は個人の財産であるため、状況を見極めながら今後も継続的に取り組みを行う。

## 2 評価(SEE)及び全体総括の部\* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

### (1) 評価

	評価の理由
<b>目的妥当性評価</b> ① 上位施策への貢献度は大きいですか？※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	残された緑地を貴重な財産として捉え、自然と調和した土地利用と乱開発を抑えた良好な開発を進め、健康で魅力的な生活環境を確保することは町民に安らぎを与える。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？(事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか？) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	緑地の保全によって、都市景観・環境を向上させることは、魅力的なまちづくりをする上で効果がある。
<b>有効性評価</b> ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	緑地保全林地区未指定の土地の地権者に承諾を得て、緑地保全林地区の指定を行うことにより、成果向上を図る余地がある。
<b>評価</b> ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	補助金を廃止した場合は、緑地に対する保全意識が低下する可能性があり、開発等が行われることにより、緑地を主体とした都市景観・環境が崩れてしまう可能性がある。
<b>効率性評価</b> ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか？(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	最低限の事務従事時間で取り組んでいるため、削減の余地はない。

### (2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

自然と調和した良好な生活環境の形成のため、今後も引き続き取り組んでいかなければならない。

## 3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→  <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	緑地保全林地区未指定の土地の地権者に承諾を得て、緑地保全林地区の指定を行うことにより、成果向上を図る余地がある。